

第27回「ハートミーティング」意見交換の内容について

京都市地下鉄5万人増客推進本部 「若手職員増客チーム」

★参加メンバーからの主な声

- 「地下鉄がなかったら京都のまちはどうなっていたか」という市長の言葉が印象的で、地下鉄増客は、単に地下鉄財政の黒字化のためだけのものではなく、京都市政全般にわたる課題であると改めて感じた。
- 様々な機会を捉えて市民の皆様の御意見を伺ってきたが、市のトップである市長御自身が今回の取組に対して、どのような印象をもっておられるのかを伺いたいと考えていた。このような場を設けていただき、感謝している。市長から「とにかく何でもやってみろ。」という強い言葉をいただき、自分たちの活動に一層の自信をもてるようになった。
- 通常の業務であれば、市長や副市長に報告を行う際には時間が限られており、ポイントを絞って報告を行うため、企画段階の苦労等はなかなか伝えられないことが多い。今回は、多くの時間を割いていただき、取組内容だけでなく、それまでのプロセスや苦労したことなど、細かい部分まで伝えることができた。
- 今回の取組を通じて組織横断的なプロジェクトチームの活動の大切さを再認識することができた。縦割りの良さもいかしながらこれからも新しい柔軟な発想で取組を進めていきたい。また、これまでの取組の中で出会った人とのつながりを大切に、今後の業務にいかしていきたい。

★市長からのコメント

- 市長に就任した当初，地下鉄の経営改善の議論は厳しい話ばかりだった。しかし，経済，観光，環境など，地下鉄を抜きにして京都のまちづくりは考えられない。京都市民にとって地下鉄は大きな財産であり，これまで市民の皆様に御協力いただきながら，全庁をあげて様々な改革に取り組んできた。その結果，4年前には1日あたり4千6百万円あった赤字が半減するなど，改革の実績が着実に挙がっている。
- 皆さんには今回も，時刻表の街頭配布や企業訪問など，よく頑張っていた。以前，ある銀行が国際会館で会議をされる際，参加者に地下鉄を使うよう案内され，3千人の方に御利用いただいた。こういうことが広がってきているのは，まず市役所が頑張ろうという姿勢を示して，地道に市民の方々に訴えてきた成果である。
- トイレのネーミングライツも非常に面白い発想である。また，駅階段のカロリー表示であるが，私も日頃から階段を使うようにし，人にも勧めている。
- 一つ一つの地道な取組を積み重ねると同時に，新たな発想で大胆な取組を提案していくことが，地下鉄の経営改善を大きく前進させるものと考えている。少し気恥ずかしい感じがしても柔軟な発想で取り組んだところが，大変良かったと思う。
- それぞれの職場でも，課題解決に向けてできるだけ柔軟な発想で議論を重ねながら実行していただきたい。

★由木副市長からコメント

- 一緒に仕事をする中で、京都の若い職員は優秀だと思っていたが、改めて本当に素晴らしいと感じた。
市長が前向きに、地下鉄・市バスは市民の財産と言ってきていることが浸透してきた。是非継続的に発展させていけるように取り組んでほしい。
- 京都市は、バス・地下鉄両方を交通局が一体で運営しているのが、素晴らしい財産だとよく言われる。そういう意味で、ポケット時刻表もそうだが、市バスと地下鉄がクロスオーバーした使い方をもっと色々提案していくと、地下鉄だけでなく、市バスもより良くなると思う。